

# 布団の圧縮包装で配送コストを削減

## 「SF-95A」導入、工場・店舗の省スペース化も実現

福井県のホームクリーニング業、(株)黒川クリーニング社（本社・坂井市、黒川俊之代表取締役社長）では、全国宅配の展開など重点事業として力を入れる布団クリーニングサービスにおいて、(株)日本シーリングの布団・毛布圧縮機能付きシール機「SF-95A」を導入。工場内や店舗の省スペース化や搬送業務の効率化を実現している。同本社工場を訪問して、導入の経緯や稼働状況について生産本部・野村和弘部長に話を伺った。

### クリーニング業近代化の先駆的存在

黒川クリーニング社は、昭和 27 年に高級和服専門の黒川クリーニング店として創業。同 37 年には県下で初めてパークドライ機を導入、県内同業者のドライ物ホールセール工場（高級品専門の下請工場）を開始。同 40 年には全国に先駆けてクリーニングのチェーン店システムにより事業を拡大した。その後も業界の先駆的存在として常に先進的な技術やサービスを展開して、業界内でも広く知られる企業となった。

現在、福井県・石川県下において 8 工場、158 店舗を



野村和弘部長

展開しており、ホームクリーニングのほか和服、リフォーム、コインランドリー、業務用ユニフォームのクリーニング等の事業にも力を入れている。また、布団クリーニング事業については、平成 8 年に布団工場を新設して布団完全水洗いサービスを開始。令和 3 年に



◀重点事業として力を入れる布団クリーニング事業の効率化へ、布団・毛布圧縮機能付きシール機「SF-95A」を導入。配送コストやストックスペースの課題を解消した

は全国宅配サービスを始め、楽天市場にも出店して全国各地から布団やスニーカークリーニングが集まってきている。

### 布団の宅配「シーツかけたまま」が好評

サービスを始めて 5 年目となる布団の宅配クリーニングは今年も順調で、4～6 月に保管サービス付で入荷した 470 袋は、秋の納品に向けて現在も生産が続いている。また、保管なしの受注はその 2 倍以上を集め、7～8 月はかなり繁忙となったようだ。

今年はとくに、シーツカバーをかけたまま出してもら



▲黒川クリーニング社 春江本店



▲常に先進的な技術とサービスを生み出す本社工場



▲布団を均一にプレスしながら脱気してシールカットすると、かさばる布団が右のような状態に仕上がる



い、従来と同料金でシーツも込みでクリーニングする新しいサービスが好評だったという。工場ではシーツを外し、布団と別に洗って仕上げ、返却時にシーツをかけ直して納品している。

工場としては手間が増えて大変だが、野村部長は「(消費者も同業者も含めて) 人が嫌がること、困っていることをサービスとして提供することが大事」と語る。

宅配クリーニングの布団については現在、ふっくらと仕上がったままの返却としているが、店舗受付分については、布団をプレスして圧縮する「脱気包装」を始めている。日本シーリングからのメールで圧縮機能付きシール機「SF-95A」を知り、かさばる布団の配送やストックスペースを課題としていた同社では、黒川社長と野村部長と一緒に埼玉のショールームに見に行き導入を決

めた。

## 省スペース、配送コストも削減

「SF-95A」は、大きな布団や複数枚の毛布などを簡単に脱気し、かさばる商品をコンパクトに包装できる機械。

操作は、袋に入れた布団を機械の横側からセット、袋の端がヒーターより手前に出ていることを確認し、フットスイッチを踏むと、上からプレス板が下降し、布団を均一にプレスしながら脱気。布団が圧縮された状態で、左右のスイッチを同時に押してシールカットするもの。処理能力は、時間あたり 180 枚 (袋入れの時間除く)。

電源は 100V なので場所を選ばず、キャスター付で設置後の移動も簡単にできる。シール幅は 950mm、ヒーターは 2 重シールで、シール箇所が開かないように圧着できる。寸法は、幅 1,200 × 奥行 1,720 × 高 2,060mm。これまでの導入効果として、以下のような事例が挙げられる。

病院寝具 A 社では、ベッドパッド 4,000 枚を運搬する場合、トラック 1 台にカゴ台車に 100 枚 × 8 台を積載し、5 台を要したものが、30% の圧縮効果で 130 枚 × 8 台が積載可能となり、トラック 1 台を削減。トラックの維持費、委託費、ドライバーの人件費削減につながっている。宅配クリーニングを行う B 社では、カゴ台車への積載量が約 2 倍になり、スペースの確保につながっている。集配袋のサイズダウンにより、運送費が約 45% 削減できた。

なお、包装資材は真空パック用の袋と比較して低価格の袋が使用でき、月 2,000 枚使用で約 400,000 円から 62,000 円と月間 84% の経費を削減。また、真空包装機の 1 回の包装時間約 90 秒に対し、約 20 秒となり約 70 秒短縮。月間 2,000 枚で 38 時間の短縮となる。

脱気の持続と復元については、こたつ布団の場合、4 ヶ月経過して約 15% の空気の戻りを確認するも、その後は状態を保持し、変化なく 6 ヶ月経過。また、空気を一



▲◀ 洗浄後は布団乾燥室と大型乾燥機のダブル乾燥により、ふっくらと仕上げる  
▼防ダニ抗菌加工済証





▲圧縮前後の比較。台車に2倍以上の積載が可能に

部残して脱気包装しているため復元が早く、しわもつきにくい。6ヶ月後、手で袋を破くとすぐに空気が戻りふくらみ始め、全体を広げ軽くたたくと、開封から20秒後には包装前の風合いに戻る。

## 納品時に追加していた車輛が不要に

布団の圧縮包装について野村部長は「最初はお客様の反応が気になっていたが、いざやってみると押入れの収納スペースに余裕ができた」と好評だった」と語る。

課題としていた布団の配送については、「福井・石川の7工場から4トン車で布団を運んでいるが、仕上がった布団は受注時より2倍近くにふくらんでおり、入荷時と同じトラックでは運びきれず、ハイエースをプラスして運んでいた」という。

圧縮包装をすることになって、この配送の問題を解消。「圧縮包装により従来の2.5～3倍を積めるようになり、ハイエースが不要になった。ガソリン代、高速代などのコストはかなり下がっている」（野村部長）。

また、各営業店では衣類とともに布団もストックする必要があるが、「すぐに取りに来られないケースも多いので、かさばる布団は店内スペースを圧迫していたが、圧縮することでストックスペースの問題もなくなった」という。

スペースの問題は工場も同じで、シーズンになれば仕



▲圧縮により店舗のストックにも余裕が生まれる

上がり品の台車が並んで身動きがとれないくらいになり、作業者がスムーズに動けず生産性も落ちていたが、今は動線がしっかり確保できて生産性向上にもつながっている。

野村部長は「機械自体もコンパクトで場所をとらないし、台車の数も減った。作業もスピーディーにこなせている」とSF-95Aを評価する。

## 新工場計画、ユニフォーム増産へ

同社の本社工場はホームクリーニング工場としては大型で、その一つの建屋にホームクリーニングやユニフォーム、布団などの各生産部門が入っているが、現在、その各部門の工場を、それぞれ建屋を分けて新設する計画が進められている。

来年にも始まるというこの計画について野村部長は、「需要がまだまだ伸びる見込みのユニフォームは、新工場で生産能力を高めて事業を拡大したい。また、新設時には日本シーリングの三方全自動包装機（SS-001K）を入れて、ユニフォームも脱気包装することを検討している」とした。

また、需要が縮小傾向のホームクリーニングについては、「これまで高い技術で信頼を獲得してきた会社なので、とくにハイブランド品などを安心して出してもらえる仕組みを作りながら、今後も『洋服のお医者さん』としてお客様のお困りごとをなくすようなサービスを提供していく」と語った。

※製品に関する問合せやショールーム見学、商品テストの申込みは、TEL048-758-4422 まで。ホームページでは、デモ運動画を公開中（右のQRコードからも視聴可能）。<https://nihon-sealing.com>



▲専門技術者によるリフォーム



▲好調なユニフォーム事業